3 ひとりから始められる水の環復活の取り組み

実行計画の中から、１人ひとりで始められることを抜き出しました。ぜひひとつでもやってみて、水の環復活の環を広げていきましょう。

① ひとりひとりの生活の場をしっかり「水の環」に組みこもう

a 雨水を地中に浸透させる

なるべく土や緑の地表面を保つ

舗装は透水性や保水性のあるものを選ぶ

雨水ます・トレンチを浸透性のものにする

b 雨水をいったん貯留する

雨水タンクを設置する

c 雨水を利用する

打ち水、散水をする

d 緑を増やす

家庭菜園

緑のカーテン
屋上や壁面を緑化する

② 雨水や川のゆくえを意識して行動しよう

名古屋港のゴミ

◎ 側溝や河川敷などにゴミを捨てない
◎ 大雨時には、なるべく洗濯しない、風呂の栓を抜かない

③ 水循環の要となる森や湿地を守ろう

市民緑地

◎ ため池、湿地、農地、樹林地を持っている人は、なるべく残す

④ 地産地消を心がけ、水に関わる物質循環の環も復活しよう

◎ 魚介類、農産物、木材・木製品などは、伊勢湾とその流域産のものを積極的に選ぶ

※水の環戦略では、伊勢湾とは、三河湾を含む範囲を指します。

⑤ まちの手入れに参加して水循環を助けよう

◎ 側溝を清掃する
◎ 河川清掃や植樹などのイベントに参加する
◎ 公園、街路樹、河川などの手入れに参加する

植樹

街路樹愛護会

⑥ 調査に参加して取り組み効果を把握しよう

私たちの取り組みで、まちがどう変わったか、調査していきます。
市民の方々の協力をいただく調査も行う可能性があります。
情報を発信してまいりますのでご協力をお願いします。

湧き水モニタリング

⑦ 水循環を学んでまわりの人に伝えよう

市では、雨水浸透・貯留施設の展示など、水の環復活に向けたPR活動を行っていきます。
水循環について学んで、まわりの人に伝えてください。

環境デーなごや

名古屋市環境局地域環境対策部地域環境対策課　〒460-8508　名古屋市中区三の丸三丁目1-1
電話:(052)972-2675　FAX:(052)972-4155　電子メール:a2675@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

このリーフレットは、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

水の環復活2050なごや戦略　概要版

～豊かな水の環がささえる「環境首都なごや」をめざして～

名古屋市では、平成19年に策定した水循環に関する構想「なごや水の環(わ)復活プラン」（以下ではプランといいます）をふまえ、市民(公募)・学識経験者・行政職員からなる「水の環復活推進協議会」において具体的な事項の検討を重ねてきました。その結果として、プランを改訂し、2050年を目途とする長期目標と、2012年までの短期実行計画から成る「水の環復活2050なごや戦略」（以下では水の環戦略といいます）を作成しました。

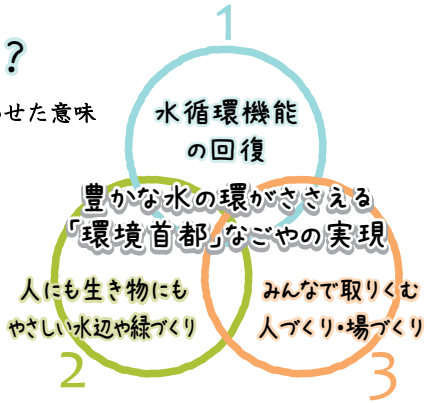
※ このリーフレットは、水の環戦略の概要版です。本編は、名古屋市公式ウェブサイトをご覧になるか、市役所までお問い合わせ下さい。

本編：第１章

1 「水の環復活」ってどういうこと？

「水の環復活」とは、右図に示した３つをあわせた意味を持っています。

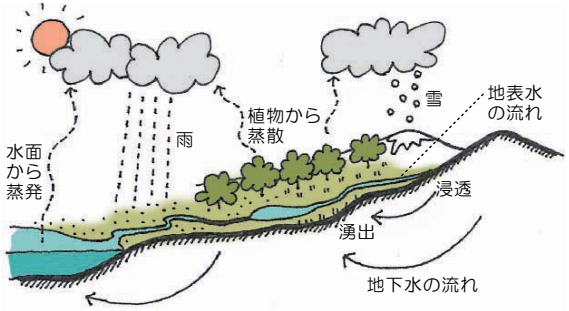
1 水循環を良い状態にすることは、私たちにとって持続可能で快適な環境づくりにつながることであり、2 同時に子どもや他の生き物にとって豊かな環境をつくることと表裏一体の関係です。そして、それを実現するには、3 多くの人の協力が必要です。これが、「水の環復活」をこのように定義した理由です。



水の環復活によって、水の環戦略の理念「豊かな水の環がささえる『環境首都なごや』の実現」をめざします。

2 水循環の機能って何？

自然の状態では、水は、下図のように循環しています。水が循環することは、私たちにいろいろな恩恵をもたらしてくれます。水の環戦略では、これを「水循環機能」と言います。



<水循環の代表的な機能>

★ 降った雨がいったん地中にしみこんだり、地表のくぼみなどに蓄えられることで、水害を起こりにくくする

★ しみこんだ雨が地中をゆっくり流れ、やがてきれいな湧き水となることで、雨がしばらく降らなくても河川やため池、湿地の水量を保つ

★ 水面や緑などから水が蒸発する時、気化熱によって熱環境を穏やかにする

3 水循環の機能は損なわれているの？

昔に比べて、市街地が大幅に拡大しました。森林や湿地、田畑だったところに、建物が建ったり、舗装道路ができたりしています。わたしたちの生活は便利になりましたが、水循環の面から見ると、雨がしみこみにくく蒸発散しにくい地表面が拡がることになりました。

昭和42年

市街地拡大の例
名古屋市北区の北部

平成13年

順路

そういうわけで、水の環を復活し、豊かで誇れる名古屋をつくりたい！

順路

みんなの協力で、雨を地中にたっぷりしみこませたり、しっかり蒸発散させる。その結果、まちはしっとり潤い、湧水が生き物を豊かに育み、子どもたちは身近な水辺で遊んで学べる。そんな夢の実現を目指すのが「水の環復活」です。

5 水循環はまちづくりの一側面。だから戦略はこんな方針で進めます。

1. 治水や利水、緑地など各分野の考え方（縦糸）に、水循環の視点から「横糸」を通して、整合性と理念を持って取り組みます。
2. 2050年を目途として、実現したい名古屋の姿や目標を共有し、そこに向かって何ができるか考えます。
3. 水循環については、まだわからないことが多い状況です。わかっていること、やってみる内容、成果、反省点など、情報をわかりやすく示し、議論や合意形成を活発にします。
4. 名古屋市は、水について、多くの地域との関係により成り立っています。地域間連携を積極的に行います。

本編：第4章

どうやってすすめる？

◎ 第1期（現在～2012年）には、こんなことの実現を目指します

一人ひとりの熟度や、他の行政計画との整合性の面などから、2050年までの間を３期間に分けて考えます。第１期（現在～2012年）には、次の状態の実現を目指します。

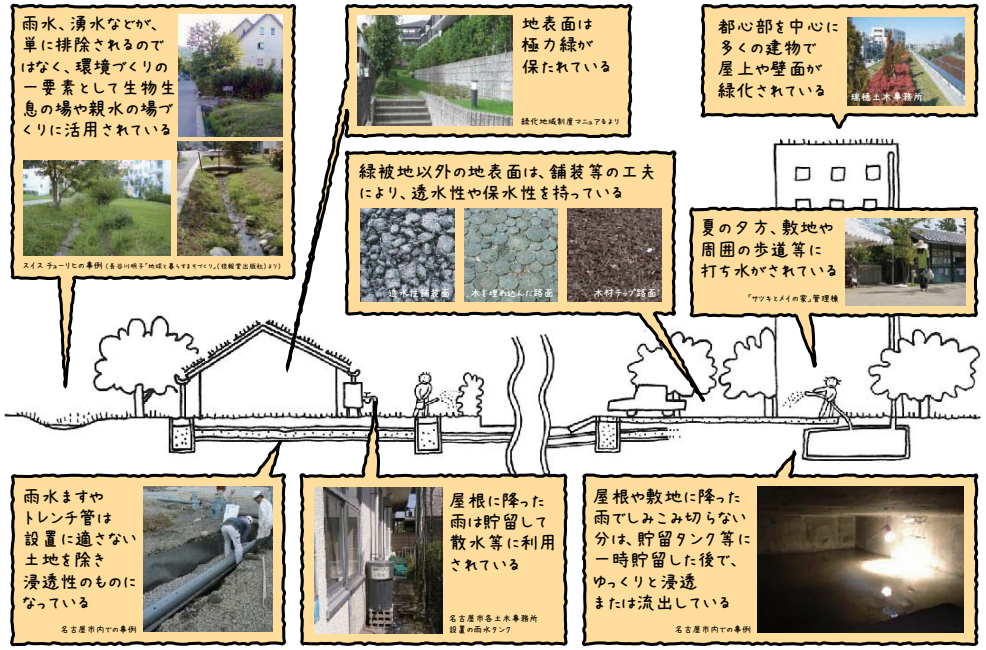
★ 多くの人が、水循環の問題についておおまかに理解しています
★ 先進的な人や企業等が、水の環復活に向けた行動を始めています
★ 市では、目標実現に向けて取り組み内容が不足する点について、分野横断的に検討が行われています

◎ 指標のモニタリングと協議会開催を中心に進行管理をします

水の環復活推進協議会において、計画の進捗状況や指標の調査結果などをもとに、次の実行計画の策定や、必要に応じて戦略の見直しを行います。

本編：第5章

1 2050年のなごやの姿を、場所ごとにくわしく見てみて…



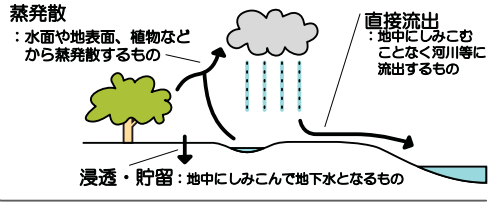
これは「建築物とその周囲や駐車場」の部分です。本編では、他に「まちづくり全般」「道路」「公園・学校・コミュニティセンターなど」「林や森」「河川・運河・海」「湿地・湧水地とため池」「農地・農業用水路」について掲載しています。

2 2012年までにやりたいことを整理しました（実行計画）

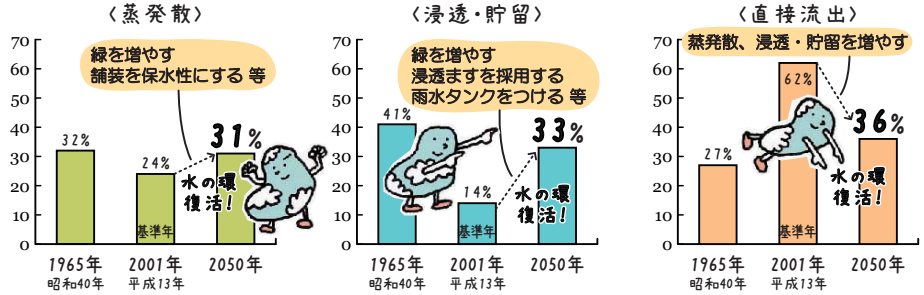
上記の場所ごとに、本編に掲載しています。このうち、多くの方々に協力してほしい事項を、次のページに抜き出しました。

1 どのくらい取り組みを進めたか「水収支」で調べます

雨水タンクや浸透ますをはじめとする浸透・貯留施設を設置したり、緑を増やしたり、舗装面を保水性のある素材にするなど、わたしたちの「水の環復活」への努力を「水収支」として計算します。



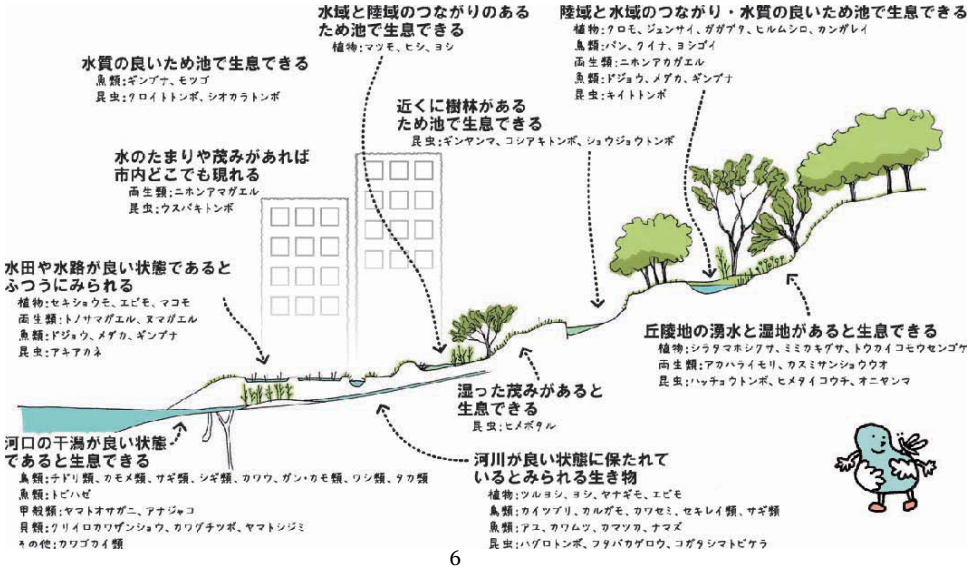
「水収支」の目標は、理想と実現可能性をふまえて、下のように決めます。これは、かなり厳しい目標です。



※ 昭和40年は、周辺市町村の編入などにより、市域が現在とほぼ同じになった年です。この頃は、緑が今よりずっと多いなど、水循環が良い状態であったと考えられます。参考として水収支を算出しました。

2 その他、こんなことに注目して取り組みの効果（まちが、どう良くなったか）を調べます

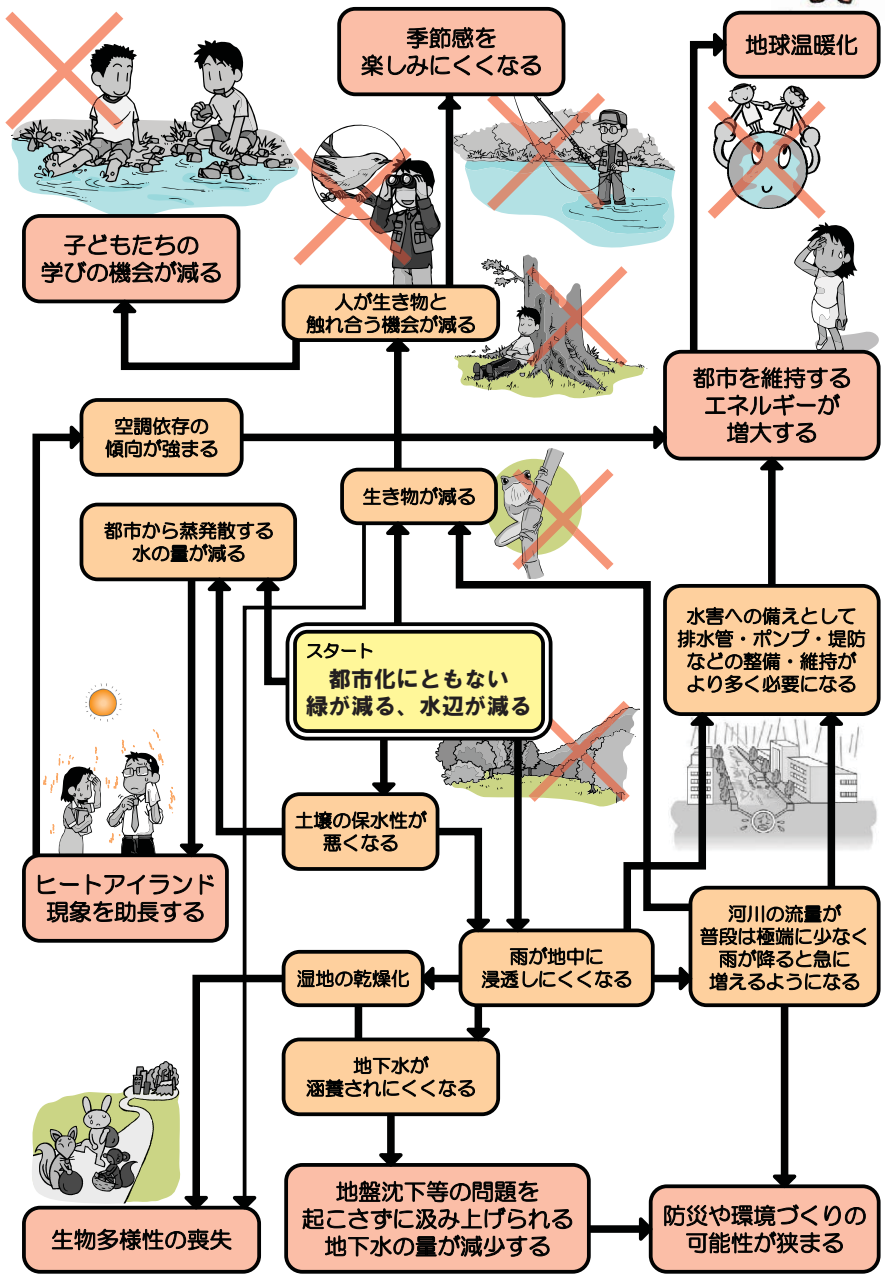
- 雨が降らない日が続いた後の河川流量
- 湿地の湧水量
- 水循環と関わりの深い生き物の生息状況
（下図のように、候補を挙げました）
- 水循環の問題をおおまかに理解する人の数
- 水循環を主要なテーマとする地域づくり活動の数
- 地域間連携の実施状況　など

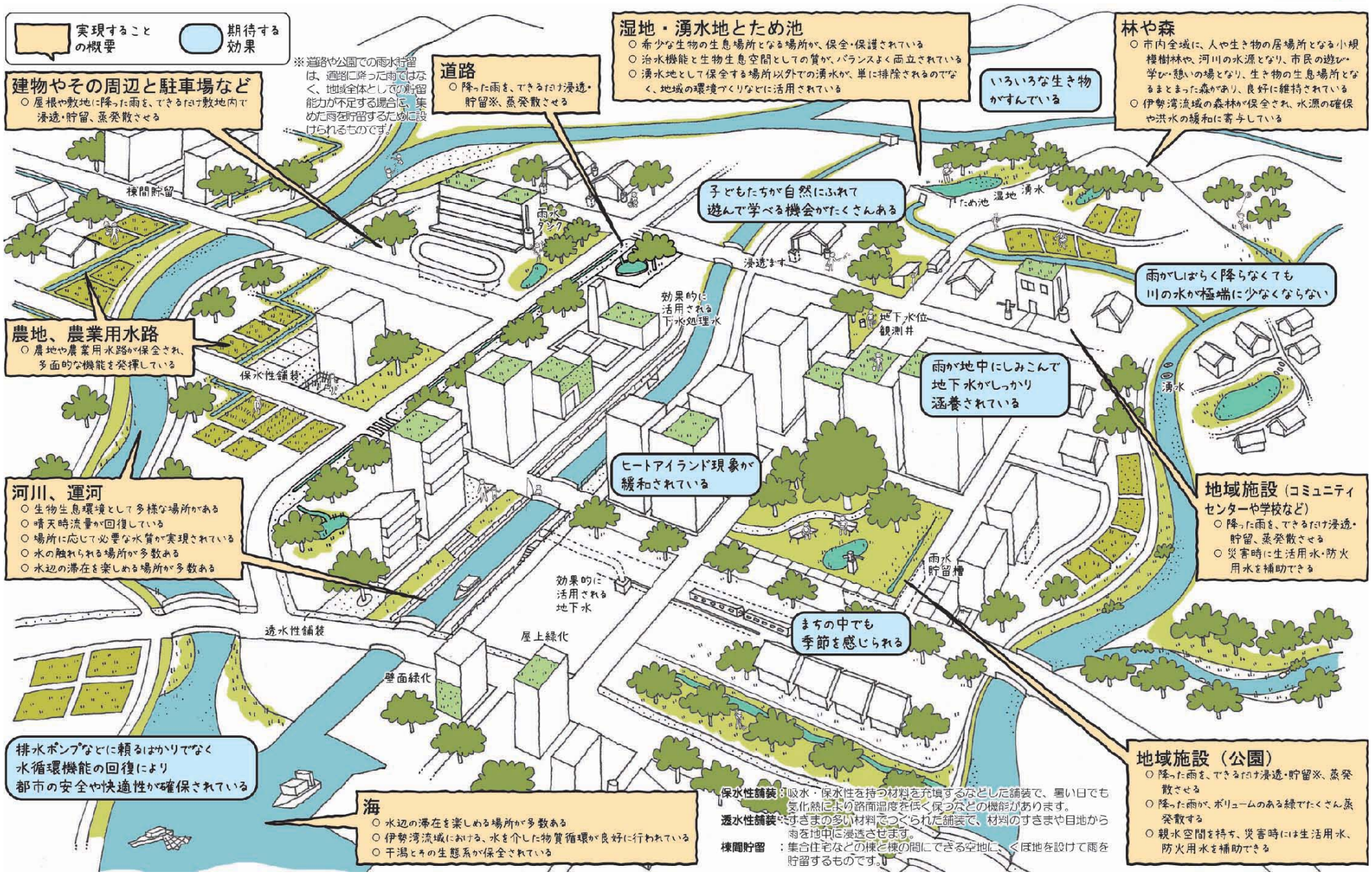


順路

4 水循環機能が損なわれていると、どんな問題がある？

雨がしみこみにくくなる、蒸発散する量が減る、といった水循環の様相の変化は、この図のように、都市が抱えるいろいろな問題につながっていると考えられます。



どんな未来を目指すの？

水循環の視点から、2050年を目途に実現したい名古屋の姿を描きました。